

保守のドン「石原慎太郎」ばなれが加速している。

私自身、選挙の度、迷いもなく「石原慎太郎」と書いてきた。

しかし、今思えば、思いどおりにならない事や面倒くさい事を投げ出してしまおうのは、「国家より自分」ということだったのかもしれない。

1995年の議員辞職演説でも、国や主君のために身を賭すという侍の気構えはなく、「あなたがやらずして誰がやるの？」と落胆したのを昨日のことにように思い出す。だがその後も、三島由紀夫先生や江藤淳先生の遺志を、現実の政治に具現する使命を帯びた政治家として、あなたを信奉してきた。

そして、都知事を経て国政へも復帰していく中で、あなたの側近達の身近にいた私は、多くの「ウソ」や「無責任」を目の当たりにする。保守の結束を夢見た多くの政治家が、氏の「気まぐれ」と「息子孝行」に翻弄されてきたのだ。

その具体的事実「ファクト」は沢山ある。国家より、公よりも「息子の保身」、至極普通の事であり、責める筋合いのことではない。だが、「只のお父さん」の器に満足できず、芸風のように国士や侍を気取り、国家を持ち出すのはご遠慮願いたい。豊洲問題での言動も然り、たかが記者会見に臨むのに「果し合い」だとか、移転保留を「国辱」だとか、空気を読めない「保守おやし」の虚勢ではないか。あなたに「死の覚悟」など誰も求めては

『いいわけサムライ』

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

いない。

たかだか「ファクトの説明」だ。そして、あなたの本質が透けて見える、豊洲以上の失策が「新銀行東京の頓挫」であり、「尖閣諸島寄附金の塩漬け」だ。

豊洲問題では、「知見がない」と逃げるが、莫大な累積赤字を抱えた銀行をして「私が社長だったら銀行を大きくした」と知見を吹聴しながらも、旧経営陣に責任を押し付けたではないか。尖閣基金にしても、はなから戦略はなく、有志の浄財が宙に浮いている。週2日しか部下を指揮掌握しなかった中で、数少ない肝いり政策なのだから、その総括を聞きたい。

小池百合子都知事への私怨？をして、果し合いだの、国辱だの、ちゃんちゃらおかしいし、あなたのメンツなど、国益のタシにもならない。

勇ましい言葉や国家を語れば、我々「保守おやし」が共感するわけではない。じたばた氣勢を張るより、淡々と事実を語り、静かに引退してほしいだけだ。

「宣戦布告」という勇ましい公式サイトで、豊洲の言い訳なんて、カッコ悪すぎでしょう。尖閣基金14億円が、定期預金として塩漬けなのだ。

小池さんと張り合う時間と気力を、空母「尖閣」の製造に向けて頂きたい。

「言い訳サムライ」を見てみると、涙がこぼれてくる。



Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集
『雲涯蒼天』
定価700円
Amazonにて販売中